

# 江藤正明の基本英文解釈

[1]	英文解釈に必要な文法用語	1
[2]	入試文例(1)	9
[3]	入試文例(2) 一会話文	23
[4]	入試文例(3)	39
[5]	入試文例(4)	53
[6]	入試文例(5)	61
[7]	入試文例(6)	73
[8]	入試文例(7)	85
[9]	入試文例(8)	93
[10]	入試文例(9) 一会話文	105
[11]	入試文例(10)	133
[12]	入試文例(11)	143
[13]	入試文例(12)	155
[14]	入試文例(13)	165
[15]	入試文例(14)	177
[16]	入試文例(15)	189
[17]	入試文例(16) 一応用問題演習	205

## 《全文訳》

私には一番であることを強く切望する人々のことがわからない。一番にこだわることはまったくばかげた事であり、私達の生きている合理的な時代にふさわしくない単なる夢物語である。宇宙や月で死ぬ必要などない。

## 《 全文訳 》

昨夜の組合の会合で、出席していたメンバーの間にはいろいろな意見の違いがあった。従業員の中の1つのグループは、経営者側と妥協してもいいという話を持ち出したが、もう一方のグループはすぐに非難した。妥協案に反対した人々は昇給と労働時間の短縮と労働条件の改善を求めてねばりたかった。どんな妥協であれ、妥協というのは戦うことなしにあきらめることだ、というのが彼らの言い分だった。

## 《全文訳》

彼女はあまりにも純真で、他人との付き合いの中で自分を意識することはまったく（少しも）なかったので、人々が彼女のことを陰でコソコソ話したりすることもあるなんて考えにも及ばなかった。

## 《 全文訳 》

自分の運命に対して、盲目的な生きどおりを感じている状態の子供や大人がそのような運命という事は、自分の以前の行い（行動）の結果なのだとということを知るようになることができれば、その人の腹立たしきは、そうしたことを見抜く知的な理解力のお陰で和らげられるものである。

《 全文訳 》 ( J : ジュディ, S : サダオ )

J : あら, サダオ君。今夜, 何するの？。

S : 僕？。家に帰るところだよ。ちょっと寝なきゃねえ。

J : 寝るのはいつだって出来るわよ。ところでダンス好き？。

S : ダンスだって？。国に帰っていた時にはいっぱい踊ってたよ。

J : 私達何人かで今夜出かけるつもりなの。ぜひ, 私達と合流したらどう？。 S : どうしようかな。何をしようとしてるの？。

J : 私達はダンスして, ちょっと楽しむつもりよ。

S : 面白そうだね。でもね, 英語をしゃべるのはおっくうだよ。

J : 私達と同じようにしゃべっているんじゃない。そんなにためらわないで 一緒においでよ。

S : それにね。僕はこの古い服を着てるしね。

J : ああ, 大丈夫だよ。私達は皆このままで行くのよ。

S : 楽しそうだね。私は本当は踊るのが好きなんだ。けれども僕はすごく疲れているんだ。

J : 2, 3分すれば疲れていることなんか忘れるわよ。さあ, きっと楽しいわよ。

## 《全文訳》

ジムは『中古服売買』という看板が表に出ているお店に入った。ジムは1本の古いズボンを手に持って、その店の主人にたずねた。「このズボンにいくら値をつけますか。」主人はズボンを見て、乱暴に「2ドルだ。」と言った。

「待って下さいよ。」「僕はそのズボンは少なくとも5ドルの価値があると思うよ。」

主人は「いいえ」と言って、「そのズボンは2ドル以上はつけられない。」

「そうか。」とジムは言った。2ドルをポケットに出しながら「さあ、払いましたよ。」「このズボンには6ドル50セントの値札がぶら下がってましたよ。でも、それは高すぎると思って、本当はどのくらいの価値があるか確かめたかったんだ。」

そしてジムは、びっくりしたお店の主人が、何かを言うべきことを考えつかないうちに逃げてしまった。

## 《 全文訳 》

公害の結果として、アメリカ合衆国とカナダの国境にあるエリー湖は、どんな水性生物も住んでいない。

水質汚濁はただ単に一晩のうちにたくさんの数の魚を殺す強度に濃縮された毒の問題などではない。公害の影響は何カ月あるいは何年も気づかれない。なぜかという、最初に影響を受ける生物は植物かあるいはプランクトンだからである。しかし、これらの生物や植物やプランクトンは魚や鳥のその他の動物の食物である。そして、この植物が消すとき魚や鳥たちも消えてしまう。このようにして、食物連鎖全体がきれいに死に絶えてしまう。死んだ魚や水鳥が川岸や海岸で発見されて初めて、人々は何が起こっているのかに気づくのである。

汚染物質はどこからやってくるのだろうか。そこには2つの主な発生源がある。つまり下水と産業廃棄物である。家庭内で多くの洗剤が使われた同じ分だけ、下水を通して、それは結局、川や湖や海に排出される。洗剤は鳥たちの羽根を防水に保っている自然な脂肪を含んだ物質を溶かして水鳥たちに害を及ぼす。もし下水が適切に取り扱われないと、その下水自体がその水を汚染し、川や海の生物体が必要とする酸素の吸収を妨げる。産業廃棄物はもっともっと有害である。なぜかという、その産業廃棄物には他のものに交じって銅や鉛やニッケルの化合物が含まれているからである。そして化合物全体が、多くの水性生物体にもものすごく有毒だからである。

だから私達はこの公害をやめたいのなら、答えは簡単だ。つまり、私達は下水や産業廃棄物を浄化しなければならないのだ。川や湖の中のいくつかは救うのが手遅れのものもあるかもしれない。もし私達がすぐに正しい行動をとれば、まだ救えることもできるところもあるのだ。



## 《 全文訳 》

沈黙は人間にとって不自然なものである。人間は泣き声をあげて人生を始め、静寂の中で人生を終わる。生まれてから死ぬまでの間に人間は生活の中で音をたてて、沈黙を防ぐために出来る限りのことをやろうとする。人間が沈黙の恐怖よりももっと大きな（何物かの）恐怖におかれることはめったにない。人間の会話でさえ大部分が沈黙の恐ろしさを防ぐために必死の試みをするのだ。もし人が、もう一人の人に紹介されてその会話の中でたくさんの空白が生じたら、その人は自分を敗北者つまり価値のない人間と考えてとてもおめでたいおしゃべり屋さんに対するうらやましきでいっぱいになる。人は人間の会話の99%がハエのブンブン言う音に過ぎないということを知っている。しかし人間はそのブンブン言う音に加わって、そして自分が人間であってろう人形なんかじゃないということを確認しようと切に望むのだ。会話の目的はその大部分は考えを伝えるだけでない、つまり会話の目的というのは、そのブンブン言うことを保つことである。しかしながら、私達が沈黙を怖がるのは、実は社会生活の中だけではないのだ。私達が自分で気付いている以上に音を愛するものである。たとえ他の人間がそこにいないときでもそうなのである。私達が田舎に住むために都会から出て行こうとしているのだと考えるとしたら、私達は思い違いをしているのだ。私達は音から逃れるためではなく、違った種類の音を求めて、田舎へ行くのだ。

## 《 全文訳 》

オリンピックは、明らかにアメリカ合衆国ではとても人気があった。そして、オリンピックは愛国精神の噴出を招くことさえあった。よその国々に関するいろいろな報道や、私の行ったいろいろな観察を通して、私は愛国精神とオリンピックとが密接な関係に進展するらしいということに気がついてきた。この種の現象はアメリカ合衆国に限ったことではなかった。確かに、1964年の東京オリンピックは、日本の国家としての誇りが、オリンピックを成功させて完了した場面で、赤々と燃え上がるよい機会であった。まことに東京オリンピックは見事な成果を収めた。

それでも、規模の大きい国際的な事業というものは、各国家や各国民の間の協調を奨励するために、一国家のプライドという感情的な気持ちを押さえる方向に計画されるべきである、と私は常々考えてきた。ところが、オリンピックで私達が現在見聞するのは、（私は述べた）理想どころか競争意識や国家意識の強化という状況である。

## 《 全文訳 》

アメリカとは何か。これは1490年代以来、世界を魅きつけてきた問題である。多くの人々にとって、アメリカは驚くほどの富を意味した。何世紀もの伝統によって依然として苦しめられているヨーロッパの国々には、実現不可能ないろいろなチャンスがアメリカにはあると気づいている人もいた。アメリカが生み出してきたいろいろな展望が理由となって、いろいろな種類の人々がアメリカの海岸を目指してやって来た。これらの異なった民族集団はアメリカの大地の産物やアメリカ全土の支配の手段を求めて競争してきた。これらの競争の努力が、今日私達がよく知っているアメリカを形作ることになったのである。

## 《 全文訳 》

しかしながら仮説を立てることは問題解決のための焦点ではない。多くの昔の科学者は失敗した。なぜかという、昔の科学者たちは仮説を自分の結論としたからである。一度仮説が提供されると、次の段階はそれをテストすることである。このような科学的なテストは実験法として知られている。

## 《 全文訳 》

18世紀中頃のイギリスでは、その国家を最初の偉大な工業国つまり『世界の工場』にするための必要な条件がはっきりしていた。以前からの活気に満ちた商業経済の利益を味わいながら、イギリスではものすごい人口増加に恵まれ、そして国の内外では商取引が一層盛んになった。

人口の増加はその当時のイギリスの状況によるものと考えられる。豊作が続いたので、豊かな、そしてそれゆえに前より安い食糧が生産された。疫病の時代が終わった。そしてそれは、多分水道が改善され、石鹼が手に入りやすくなった結果としてもたらされた現象であった。工業界で働く機会に恵まれて人々は、以前よりも年若く結婚し、そして以前よりも大家族を作る傾向にあった。そしてその大家族を（簡単に）養うことが出来た。死亡率は低下し、人口は増えた。工業社会の発達のための労働力はこのようにして得やすくなった。

## 《 全文訳 》

およそ1500年前に、日本人は中国文化の多くの面を輸入しました。筆記法、政治制度、そしておそらく最も重要なものである仏教を輸入したのです。仏教の坊さんは、野菜だけを食べることになっており、大豆から作られるトーフは坊さんの食事のなかでとても重要な食品でした。仏教が中国から伝わって来た時、トーフも日本にもたらされました。

トーフの発達の仕方は、中国と日本では変わっていました。中国人はトーフの味を、強い香りを持つ野菜や肉と混ぜることで変えることが多かったのですが、日本人はアッサリとしたソースを使うだけでトーフを食べるのが好きでした。今でも日本の伝統的な料理法では、トーフに本来ある風味を生かしています。ただ、料理の仕方は、季節によって違うことがあります。たとえば、夏にはただ冷やすだけでトーフを出しますが、冬にはそれを熱い料理の一部として食べる人が多いのです。

大豆は18世紀に西洋に入って来ましたが、余り関心を持たれることはなく、科学者だけがその高い食品価値を認めていました。第2次大戦中、肉の供給が不足していた時に、アメリカ政府はアメリカ人に、大豆から出来た食物を食べることを奨励しましたが、しかし余り人気が出ませんでしたし、戦後、また肉の供給が豊かになると、人気は落ちて行きました。

最近、西洋の人々は、動物性の脂肪を大量に食べることの危険を、ますます意識するようになり、その結果として、大豆食品をますます食べるようになりました。こういうことになったのは、主として、大豆は肉と殆ど同じくらいの食品価値がありますし、それに肉よりもはるかに健康によいからです。日常使われるマーガリンや、サラダオイル、料理用のオイルの多くは、今では大豆の油から作られています。トーフは、大豆製品の代表的なものであり、もともとは中国の坊さんの食事の主要食品の1つだったのですが、今では、人間が利用できる最も健康な食品の1つだと考えられています。

## 《 全文訳 》

彼女：ああ、ジョージ。あなたが日本語を話す勉強をしてくれたらなあ。自分の考えをいつも英語で表現しようと努めるのは大変なことなのよ。

彼：でもね。君は英語でとてもよく自分の考えを述べているじゃない。

彼女：あなたは日本語を勉強すべきだったのよ。

彼：以前に勉強していたらなあ、でもね…。

彼女：日本語は英語に比べてはるかにためになるわ。

彼：そうだろうか。

彼女：もちろん、そうよ。日本語はそのうえ、もっとも愛すべきで、最も純粋で、もっともロマンチックで…。

彼：（笑って）ね。君は感情的になりかけているわよ。もし中国人だったら、中国語がもっとも有益で、もっとも愛すべきで、もっとも純粋で、もっともロマンチックで、もっとも世界中で広く使われている言語だとあれこれ言うだろうよ。

## 《全文訳》

- A：今日、世界中でいくつぐらいの言語が使われているか知っているかい？
- B：うーん、分かんないなあ、でもね、きっと約400ぐらいはあるんじゃないのかなあ。
- A：君の考えは少し控え目すぎるよ。1000以上あるんだよ。
- B：1000だって。きみは放言も含めているんだろ？
- A：反対だよ。アフリカだけで使われている放言だけでも1000以上あるんだよ。
- B：英語をしゃべるということを感謝してもいいんじゃないかなあ。世界中で英語をしゃべる人々はお互いを理解するのにあんまり苦労しないからね。
- A：一般的にはそうだよ。でも僕には何をしゃべっているのか分からないおじがいるんだ。
- B：本当？彼は外国で生まれたの？
- A：アメリカ人だよ。でもはっきりとしゃべらないだけさ。しゃべるとき自分の口をちゃんと開けないからだよ。
- B：そうか。そういう人いるよ。まるで口の中がジャガイモが一杯入っているようにしゃべるんだよね。
- A：もしおじさんのところへ行くと、とても厄介なんだ。おじが何をしゃべっているのか、人には絶対に分からない。だからおじに同意すべきかどうか分かったもんじゃない。
- B：もし誰もおじさんの言葉が分からないとすると、きっと友達はいないだろうね。
- A：その通りさ。おばがおじのことを理解できる唯一の人物なのさ、おばの発音もおじと同じくらいすごいんだ。おじとおばが2人でしゃべるとき、もしあなたが彼らとしゃべっているのを聞いたら外国語をしゃべっていると思うだろう。



## 《 全文訳 》

男と女のどちらかのある特定の種類の活動の場面でだけ、男か女のどちらかがもう一方に勝ることがあるというのが事実である。男と女のどちらかがもう一方よりもいいと言い張ることは、もしその一層強いという言葉の意味が、もっと厳密に定義づけられたとしたら、起こるはずのないつまらない理論にふけることを意味する。

## 《 全文訳 》

私達はみんな、昔から秘められた物の形や色を（ほかに表しようのない）ただ一つの正しい形や色彩として受け入れる傾向がある。もちろん星はそうではないのだけれども、子供達は星は星の形に描かなければならないと思うことが多い。絵を画くときには、空は青、草は緑、でなければならぬと主張する人々は、星は星の形に描かなければならないと思う子供達とはあんまり変わらない。その人々が、もし絵の中に他の色を見つけると怒る。しかし、もし私達が、緑の草とか青い空というふうに関かされてきたことを全部忘れるように努め、まるで私達が新発見のための旅行で、よその惑星からちょうど地球に着いたばかりであるかのように、そして地上のものをまるで始めてみているかのように世界を見つめようと努めたとしたら、物というのは、この上もなく驚くべき色彩を見せてくれる傾向があることに気づくことができるだろう。画家たちは、新たに世界を見直そうと願ひ、肉はピンク、りんごは黄色か赤であるといった今までに受け入れられている考えや偏見を全部捨てたいと願っている。先入観から抜け出すということは簡単ではない。けれども、もっともうまく先入観から抜け出すことのできる芸術家が、もっとも感動的な作品を作り出すことが多いのだ。

## 《 全文訳 》

これらの緑の植物は文字どおり世界の生物を養っている。そして、ある与えられた場所で緑の植物が栄えるその範囲が、その特定の場所の動物やキノコやバクテリアのような緑色でない植物の個体数を左右する。

## 《 全文訳 》

ある朝、私はホテルのロビーで車を待っている間、1人の上品な姿の紳士が勢いよく受付に歩み寄って来た。そして明らかに、ある特定の人物がいるのか、外出しているのかどうかということを知ろうとした。いないという知らせを聞くとすぐに、彼は私が座っていた長椅子のもう一方の端に座った。そして30秒もたたないうちに、頭を後ろのほうに傾けて、口を開けたままいびきをかいていた。彼が会いに来たその人がロビーに入って来たとき彼は即座にさっと立ち上がった。

## 《 全文訳 》

アメリカの人々は、アメリカ英語だけがただ一つの英語の種類ではないということに気づくようになってきている。そして、イギリス英語が使われているその他の国々の人々もまた、イギリス英語だけが唯一の英語の種類ではないということに気づくようになってきている。

このようにして、生まれたときから今まで親しんできた自分の国の英語とは、違った種類の英語に直面しているアメリカ人やイギリス人の中の真っ只中に挟まれて、英語を外国語として学んでいる人々が、存在しているのだ。英語を外国語として学ぶ人々は、一方の英語を理解することができないと恐れる人もいる。英語を外国語として学ぶ人々はそのうえ更に、両方とも英語と呼ばれているが、しかしいろいろな点で、依然として違う2つの外国語、つまりアメリカ英語とイギリス英語を多分両方とも学ばなければならないと考えてうろたえさえするかもしれない。

そのような人々は自分たちの恐れが全く根拠がないものだと言うことを確信したままでいるべきだ。もしイギリス英語を学んでいる人が、アメリカ英語が理解できないとしたら、それは2つのタイプの英語の間の何か大きな固有の違いのせいではなくて、その人の英語を使いこなす力が一般的には不十分であるからだ。こうしたアメリカ英語とイギリス英語の違いは、結局、両者の共通性に比べて全く取るに足らない。

## 《 全文訳 》

職業，団体の用事，社会的義務はもちろんのこと，料理，掃除，その他の家事の責任のために，確かに毎日おびただしい個人の時間が必要とされている。アメリカ人は訪問者を自分の家の中に暖かく迎え入れる，そしてお客のために時間が許す限り多くの特別な事柄をやってあげようとする。もし空港で出迎えるのが可能でないならば，訪問者は空港からホテルまでは公共の乗り物を使う，そしてホテルから相手の家までは，タクシーか民間のバスに乗れば良い。

相手の家に到着するとすぐに，きまってあなたを大歓迎するものだ。本当に，訪問者はその国にいる間に，たやすく個人の家に招待される。ある国では客をレストランで接待することが一層適切だと考えられているかもしれないけれども，それは合衆国の実情とは違う。訪問者は合衆国ではどちらか一方の接待の方法を経験するかもしれない。アメリカ人は人を自分の家に招待するほうが，その人をレストランへ連れて行くよりも，一層友好的だと考えられる。純粹に仕事の目的の場合，訪問者はいかにもレストランに招待されそうである。

## 《 全文訳 》

なぜ日本人は自分の国の経済の奇跡という結果に、次第に幻滅するようになってきているのかを理解するのは簡単だ。東京の銀座地区の中心地では昔は当然だと考えられていた日常的なもの、つまりきれいな空気やら緑の草木やら鳥たちやらその他いろいろなものが姿を消してしまっている。巨大な電子告知板は、空気中に漂っている危険な石油化学工場から発生したスモッグの数量について歩行者に警告を与えている。四角に切ったものが緑の芝生をまねて使われている。そして楽しむためのスポーツはとても高価な金儲けの事業に代わってしまっている。

押さえられない雄牛のように、日本はすべてのものを経済の進歩と金儲けの神様に捧げながら、前へ前へと突進した。この食欲さが疑いのない経済の奇跡を作り出したのだった。この食欲さはまた公害を生み出した、そして東京においては世界で一番高い生活費をもたらした。牛肉の値段は非常に高いので、デパートでは特別な場合のためのぜいたくな贈り物として派手に包装された切り身を売っている始末である。市場の値段の安い海産物の大半は汚染されている。土地の値段や賃貸借される宿泊施設は法外なものもある。

## 《全文訳》

大学は一種の社会である、そしてその小さな社会は、個人的な絆でともに結ばれた人々によって構成されている。先生と学生の関係は個人の関係である。そこには、お互いに興味を持ち合う関係、そして助け合う関係がなければならない。どんな機械装置もこの個人と個人のつながりの代わりをすることが決してできない。テレビの画面はあなたの応答に対して反応することも出来ないし、あなたの喜びや悲しみを分けあうことも出来ないし、学生食堂であなたと一緒にコーラやコーヒーを飲みながら語り合うことも出来ない。教育を機械化すること、つまり教育から人間味を取り去ることは、教育からその最も貴重な中身を奪うことである。どんなことをしても教育のこの個人の要素を大切にしよう。幸いなことに、私達の大学は、余りにも大き過ぎて私達がお互いを知ることが出来ないということではなく、またお互いに興味を持ち合うことが出来ないということもない。私達の大学では、余りにも大き過ぎて友達になることが出来ないということはない。

学生生活というものは、たくさんの事柄でいっぱいになる。

毎年この時期には、私達はみんな大学の外に出かけて行って、チームの声援をするはずになっている。いくつかの大学はフットボールを強調し過ぎる。しかし、私達の大学はそんな大学の一つではない。大学にとってはフットボール以上のものがあることを私達は知っている。立派なフットボールのチームが立派な大学を作る訳でもないことも私達は知っている。

いろいろな課外活動は、適当ならば良いことだしためにもなる。しかし、課外活動そのものだけで大学を作るわけでもない。学生は自分の研究に対して真剣に注意を向けるべきである。学生は学ぶために、そして教えるためにここにいる。

予習をしてこない子供のような学生、教授が一杯にしてくれることを期待しながら、空っぽのバケツをぶら下げて学生の役割という点ではどんな努力をしないで教室にやって来る学生、全く受け身の態度の学生、そのような学生は教育を受けていることにはならない。そしてそのような種類のコースを教えている教授は、自分のやるべきことをやっていることにはならない。

教授が予習してきた学生に質問することは、実のところ教授が予習をしてこない学生の質問に答えることよりも一層重要なのである。



## 《 全文訳 》

一人の男が書留郵便物を取りに郵便局へ行った。その男は、その書留郵便物が自分を待ち受けていることを知っていた。

その手紙はそこにあった、事務員はそれを手渡すことに反対した、なぜなら彼は手紙を受け取りにやって来た人の身分を証明する手段が全くなかった。

そして訪問者はポケットから自分の写真を取り出した、「その写真を見れば、私が誰なのかが分かるのではないかなあ。」と言った。

その事務員は、長い時間、まじめにその写真を見つめた、そしてそれから言った。「その写真はまさにあなただ。さあ、あなたの手紙をどうぞ。」

応用問題 1 の訳

- イ. 訪問者は友達よりも賢い。
- ロ. その事務員は愚かである。
- ハ. 事務員も訪問者も馬鹿ではない。
- ニ. 訪問者と同様に事務員も賢い。
- ホ. 事務員だけでなく訪問者も愚かである。

## 《 解答 》

応用問題 1. ホ 応用問題 2. 全文訳中の該当下線部

## 《 全文訳 》

もし、大多数の人々に犬を“cat”，猫を“dog”と呼ばせることが出来るなら、そのときは意味の転換が行われるだろう。そして犬，猫それぞれに対する正しい英語の単語は，現在通用している単語の正反対になることだ。

応用問題 2 の訳

イ．彼は日曜日によく釣りに行ったものだ。[過去の弱い習慣のwould]

ロ．トムは次の日に働くつもりだと私に言った。[時制の一致]

ハ．もし日本人だったら，家の中では靴を脱ぐだろう。[仮定法過去のwould]

## 《 解答 》

応用問題 1．ハ 応用問題 2．ハ 応用問題 3．全文訳中の該当下線部

《全文訳》

《解答》

アハ take on me

